

Title	太宰治スタディーズ 第2号 編集後記 奥付
Author(s)	
Citation	太宰治スタディーズ. 2008, 2
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/97249
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

太宰治スタディーズ

太宰治スタディーズ 第2号

2008年6月19日発行

「太宰治スタディーズ」の会

発行者：「太宰治スタディーズ」の会

発行所：斎藤理生

〒371-0044

前橋市荒牧町4-2

群馬大学教育学部内 斎藤研究室

印刷：よしみ工産株式会社

編集後記

■第1号から2年の間隔を空けて、やっと「太宰治スタディーズ」第2号をお届けする。特集は「1948年」。追悼文についての分析を12本、研究論文を8本掲載した。発行に際してはよしみ工産を初めとする多くの方々にお世話になった。深く感謝する。

■特集を「1948年」としたのは「イントロダクション」でも述べたように今年が太宰没後60周年だから、ということが大きい。作家の没後何周年というものに過重な意味を見出すのは問題があるのかもしれないが、その作家についてあらためて考え直す機会となればいいのではないかと思う。

■10年前の太宰没後50周年の際には、「新潮」や「すばる」が特集を組み、テレビでは故・久世光彦がホストで太宰について語り合うという番組が三夜連続で放映されていた。たしか、ゲストは町田康と水原紫苑と……あと1人は誰だったろう？ その番組の中で久世が「自分は長く「隠れ太宰ファン」だった」という意味のことを述べていたことが強く印象に残っている。リアルタイムで「太宰」を体験した人たちの「特別さ」とでもいったものには、敵わない気がして仕方なかった。そのとき僕は高校3年生だった。あれからもう、10年が経つのだ。

■「太宰治スタディーズ」の会は数ヶ月に1回くらいの割合で、読書会や研究発表会を行っている。「太宰治」という共通項は持ちつつも、各自の興味・関心は多様な分野に開かれており、相互に刺激を受け合っている様は、本号を一読していただけるだけでもその一端を感じることができのではないかと思う。この会をより開かれた「場」にしていくためにも、皆さまからのご意見・ご批判をお待ちする。